



ダークエルフの姫君と
いちやこらックス

エツチなエルフ

との

7

暮ら仕方

Presented by kasei

かせい



我が名は
メルディア

人間よりの長より
全権を委任された
我が告げる



なんという
魔力の奔流だ

強力な魔術の
使い手でもあると
いうのは事実か

あの力が手に入れば
王国ももしかしたら







待ち焦がれて
いたぞ
メルディアよ

ついにこの時が
きたな

カチャ



王のもとへ
報告が届いた

しばらくして
メルディアが
離宮へ入ったと



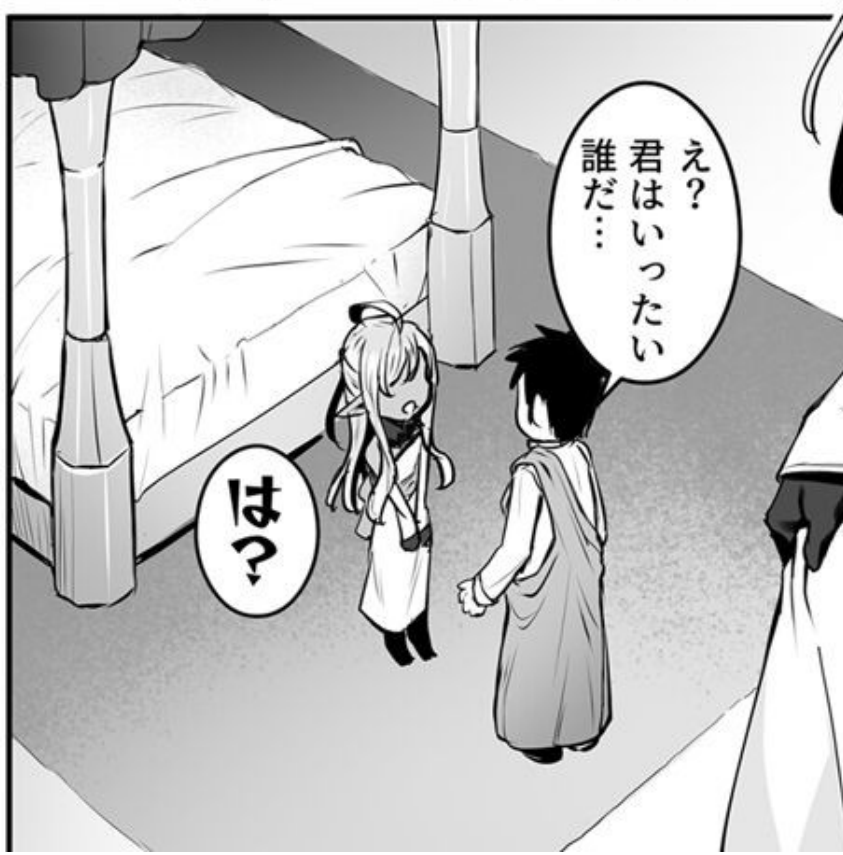
ポカロン

!?



お久しぶりです王様
同盟の証として我が身を
あなたに捧げましょう

フツ



え？
君はいつたい
誰だ…

は？



えっだって
噂じゃもつとこう

君はメルディアの
妹とか
そういうのじゃ

ゴロゴロ

はあ!?

5年いやエルフだから
5年もすれば君も
きつと...

私が正真正銘
メルディアですが

一体あなたは
私のことをなんだと
思っていたのですか



それに妹とか
5年とか

あと噂がどうか
いつてましたね
聞かせなさい

あハイ

その
かくかく
しかじかで



そんなことになつていたんですね

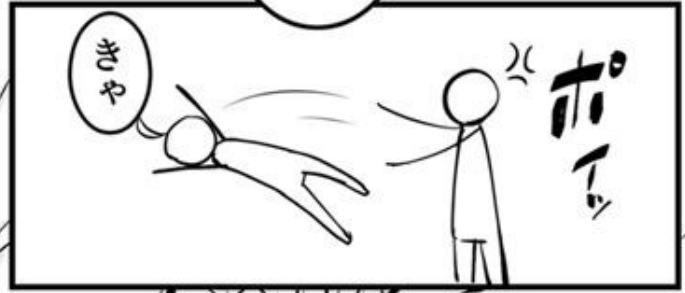
おそらく出所は父でしょう

それでああなたは噂を確かめもせず兵を挙げたと：バカですか

噂どおりじゃなくて残念でしたねお・う・さ・ま

で今更わたしを受取れないとでもいいですか？

カチン



あ

ビク

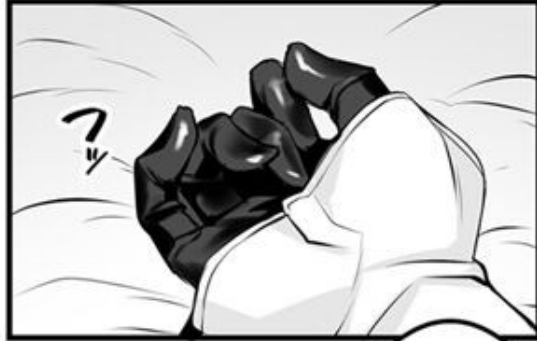
王様？

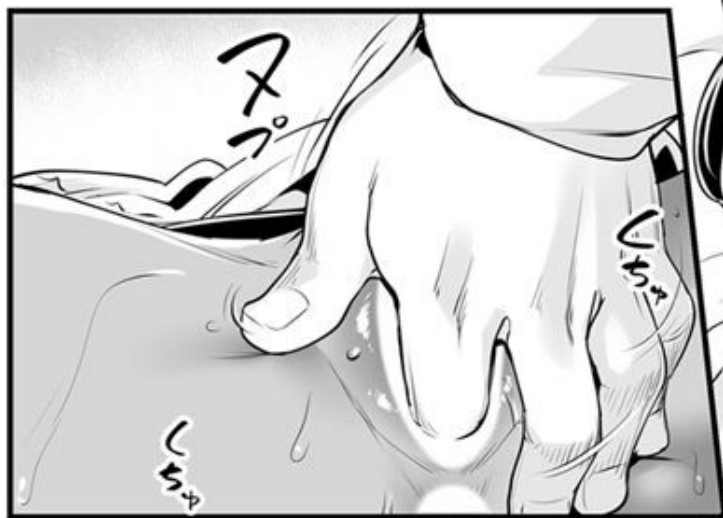
ドク

フン たしかに多少の思い違いはあったかもしれんが

お前は今でも十分魅力的だ

あおい果実というのも一興





あう
恥ずかしいです

じっと
見られると
カアア

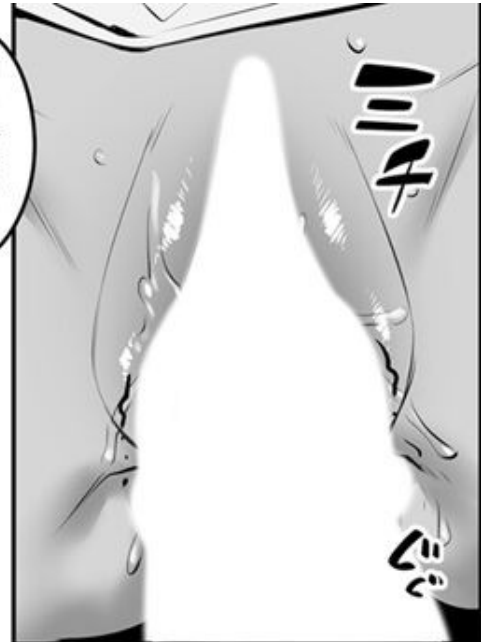
メルディア
きれいだぞ

もう調子の
良いこと言って

もじ

もじ







オエ

もう少しの
しんぼうだ



よくがんば
ったな

ツツやっぱり
痛いです

メルディア
ゆっくり
息をしろ

あッ



うごくぞ

んああ

ずる



いっ

あッ

ぬ
3.0

ず

ず
ちゅ

んく

ああ

ビ
ッ

ビ
ッ

ぬ
3.0

ぬ
ちゅ



あああああ!?

あ

でて

ドク

ドク

ドク

んあ

ドク

ドク

ドク

い

おわったん
ですか…

い

アホ

アホ



よく
頑張ったな

ありがとうよ
だがこういうのは
お互い楽しく
ないとな

そういう
ものですか？

ナゲナゲ

痛かった
ですが

なんででしょう
不思議と悪くは
ありませんでした

まだ異物感が
強いかもしれないが

あっうう

時間はある
お前を女の身体に
開発してやるからな

えっ



それから若き国王は
たびたびメルディアを
求めるようになった

ふあ

ピク

だめっ
こんな外で
なんて

急にメルディアが
欲しくなってな

キュッ

キュッ

キュッ

んあ

フルフル

もう
政務はいいん
です…んっ
かっ…あっ

抜けだし
てきた



チュルル

開発するって
約束したからな

ピク

ピク



チュルル

チュルル

ジュ

ジュ

バカあ

キュッ
ズ
ズ

あっああ

かり
かり

ピク

ピク

あるときには
政務の最中にも

王様っ
仕事中心じゃ

じたばた

あっ

なにやって
るんですかっ

ふあ

もうっ

また
メガネさんに
怒られますよ

あっ

そんな
とこまで

こういうのは
夜にっ





王様があんなに
いじるから

オレもお前に
入れたいんだよ

あつ

あうう

ぐちゅ
だいぶやわらかく
なったな

指を2本入れても
大丈夫そうだ



これが
また



入った

んっふあ

コッ

ミチ

メルディア
どうだ

大丈夫です
異物感は
ありますけど

いたくは
ないです

さす

フル

フル

ワキ



ワキ

んっ

うっあ
そのよろしく
願います?

カア

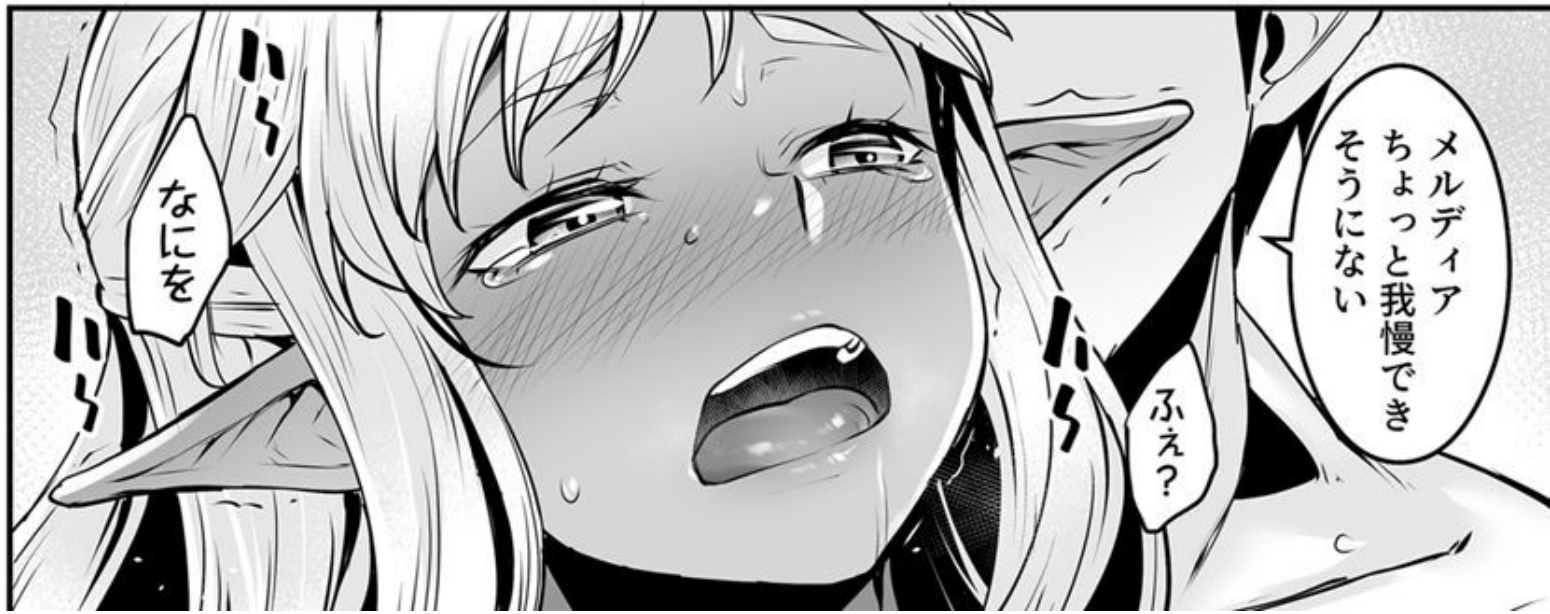
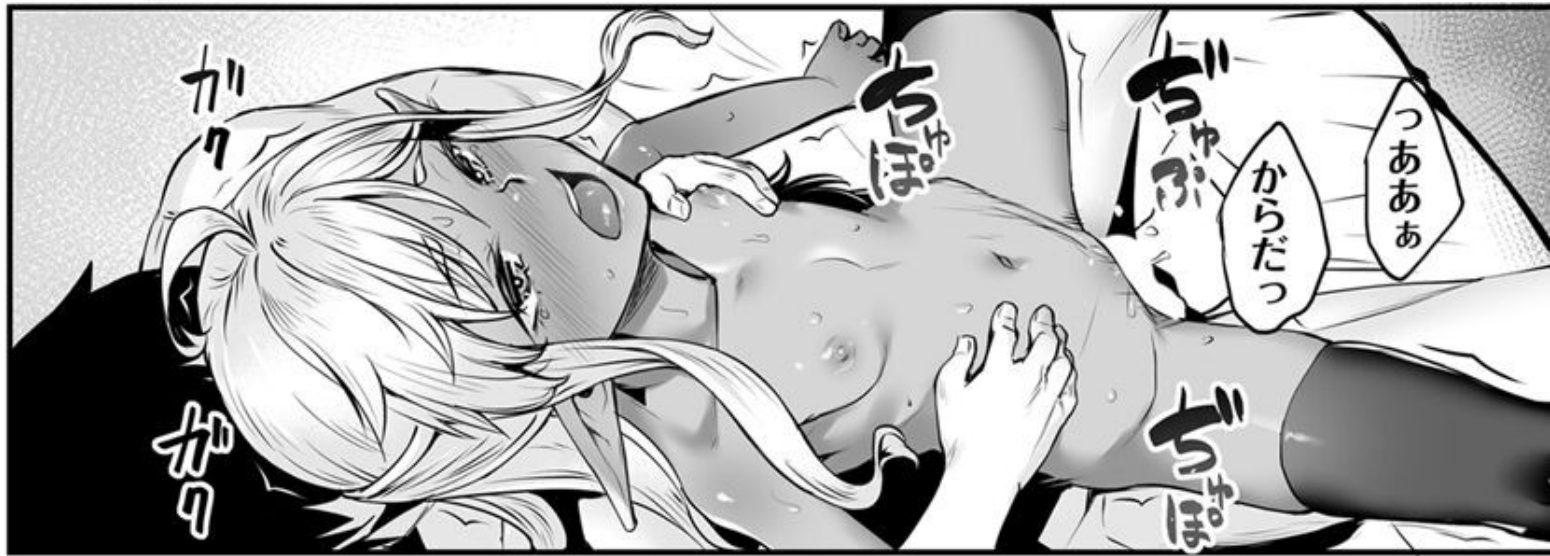
ドキ

そろそろ
いいか?
お前も気持ち
よくなつて
くれると嬉しい

合









あつ



カリ
カリ



ずん



あああつ



そんな
はげしッ

チュポ

チュポ

ひあ

チュポ

まっれ

ズポ

ズポ

カリ

あつ

だめつ

ひぐつ

カリ

こんなのつ

ズポ

ひあ

ひあ



メルディア
イクぞ!!

ひう

かり

あっ

かり

んあ

ビク

ビク

ビク

ビク

んっあああ
でてっ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ





私はそれを
なんとか
したくて

だから大国でない
あなたの申し出は
都合が良かったのです

孤立したままでは
戦火に巻き込まれた
時に手遅れに
なってしまいます



私達は長く
閉鎖的に
ありました



サワ

種族同士の交流の
きっかけになったら
良いと思って

その子供が
欲しいんです



我々は子供が
出来にくいので

これからも
お願いしたくて
ですね



そんなこと
言われたら
応えないわけには
いけないな

寝られると
思うなよ

ズイ

ガ
バ
ッ

ゴ
ク

えっ

待って下さい
王様ッ!?

なにも
今すぐとは

あっ

まって

ああっ





あとがき

お買い上げありがとうございます。

本編では使いませんでした、
設定としては
国力が乏しい小国の若い王様が
比較的近隣のダークエルフの知識と
噂の美女を欲して
兵を挙げたとか何とか

ふんわり考えはしたのですが
やりだしたらキリが
なさそうだったので
今回の形に落ち着きました。

かせい





エッチなエルフとの暮らし方 ～ダークエルフの姫君といちゃこらックス～

(7)

著者 かせい

発行 FILL-IN

この物語はフィクションです。登場する人物・事件・団体・名称等は架空であり、実在のものとは一切関係ありません。

収録されている内容は、作品の執筆年代・執筆された状況を考慮し、発売当時のまま掲載しています。

本作品の一部あるいは全部を無断で複製・転載・配信・送信・放送・譲渡またはアップローダーサイトに掲載する事を禁止します。

本作品の使用につきましては、あらかじめ弊社宛に許諾をお求め下さい。